

# 水稻・大豆 栽培情報 7月号

令和5年7月 19日

JA みづま

久留米普及指導センター

## ○水稻

### 1. 生育概況と今後の管理について

- ・田植え以降、断続的な降雨により稲の生育は軟弱徒長傾向で生育しており、ジャンボタニシの食害も散見されます。
- ・深水状態が続くと、軟弱徒長の生育に加えて分げつの発生も抑制されますので、中干しまでは浅水（2～3 cm程度）での間断かん水を行いましょう。
- ・中干しは分げつ数が20本/株になってから開始し、7月末を目途に完了しまししょう。
- ・初中期除草剤の散布遅れや散布後のオーバーフローなどで初中期除草剤の効果が不十分な圃場は、下表を参考に中期除草剤の散布を実施しまししょう。

### 2. 雑草防除（中後期除草剤）

対象雑草	除草剤	10a 処理量	使用時期	備考
ヒエ	クリンチャー EW	落水散布または 湛水散布 100ml/水 25～100L	移植後 20日～ノビエ6葉まで (但し収穫 30日前まで)	展着剤を加用する 雑草の茎葉によく付着するよう散布
	クリンチャー 1キロ粒剤	湛水散布 1.5kg	移植後 25日～ノビエ5葉まで (但し収穫 30日前まで)	1.0kg 散布では、移植後7日～ノビエ4葉まで(但し収穫 30日前まで)
ヒエ・広葉雑草	クリンチャー バス ME 液剤	落水散布または ごく浅く湛水して散布 1,000ml/水 70～100L	移植後 15日～ノビエ5葉まで (但し収穫 50日前まで)	展着剤は加用しない 雑草の茎葉によく付着するよう散布
	ワイドアタックD 1キロ粒剤	湛水散布 1 kg	移植後 15日～ノビエ5葉期まで (但し収穫 60日前まで)	田面が露出しないよう湛水状態を保ち7日間は落水しない。

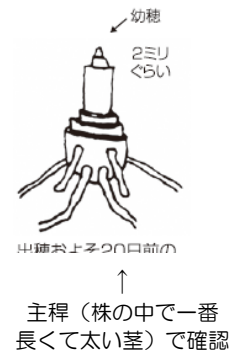
### 3. 穂肥 ※葉色が濃い、草丈の高い圃場は施肥量を減らす。

品種	平年 出穂期	第1回目穂肥施用時期		10aあたり 施肥量 (kg)	
		出穂前日数 (穂肥施用時期の目安)	幼穂長 mm	1回目	2回目
				夢一献	8/25頃
ヒノヒカリ	8/26頃	18日前 (8/8頃)	3～5	20	なし
ヒヨクモチ	9/6頃	20日前 (8/16頃)	2～3	20	15

※穂肥はNK2号又はちくごのめぐみ444を使用。

第2回目穂肥の施用日は、第1回目穂肥の7～10日後。

元ヒ一発1号を使用している場合は、穂肥は不要です。



## ○大豆

- 6月下旬以降、降雨が続いており播種の遅れが懸念されます。播種が遅れると開花までの期間が短くなり、生育量不足による低収となる恐れがありますので、トラクタが圃場内に入れるようになったら、早急に播種を行いましょ。
- 播種前の圃場は、作溝や排水口の整備を行い速やかな排水を図るなどし、播種作業ができる条件を整える。

### 1. 遅播での播種のポイント

- 7月21日以降の播種になる場合は生育量確保のため播種量（目安：株間 15cm）を増やす。  
※7月25日以降の遅播対策として、下記の【狭畦密植栽培技術】があります。
- 遅播では基肥を窒素成分で 2kg/10a 程度施用する。  
（ちくごのめぐみ 444 20kg/10a）

### 【狭畦密植栽培技術】

#### 晩播に対応した狭畦密植栽培

条間 (cm)	35
株間 (cm)	20
株数 (株/m <sup>2</sup> )	14.3
1株播種粒数 (粒/株)	1~2
播種量の目安 (kg/10a)	4.3~8.6

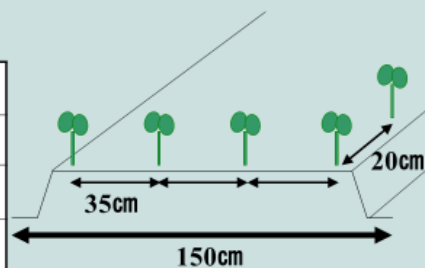


図. 狭畦密植栽培模式図

#### ○技術の特徴

- 麦の播種機を利用する。  
（播種量はロールの開度で調整）
- 密播により、草冠が早く形成され圃場面を遮光するため、雑草抑制効果が期待できる。
- 圃場面が均平なため収穫時の土のかみ込みが減少し、汚損粒の発生が抑制できる。

#### ○注意点

- 出芽ムラがあると雑草が発生しやすくなる。
- 中耕培土ができないので除草剤体系で十分な対策が必要。
- 倒伏耐性は劣る。

### 2. 播種深度の調整

- 土壌が乾燥している場合（又は、しばらく降雨がない予報の場合）は、基準（2~3cm）よりやや深く（5~6cm）播種し、鎮圧する。

### 3. 乾燥対策

- 播種後、しばらく降雨がないと予想される場合は早めに本暗渠の栓を閉めておく。  
（大雨が予想される場合は事前に暗渠栓を開けるなど臨機応変に対応する）

○農薬の使用量、使用時期は暦を参照してください

○農薬のラベルに記載されている有効期限及び登録内容を確認して散布しましょう

○農薬の隣接作物、宅地への飛散を防止しましょう